

薬害教育教材に関するアンケート調査(平成 25 年度)の結果について(概要)

1 目的

中学 3 年生を対象とした薬害教育教材「薬害を学ぼう」について、教材のより有効な活用方法等の検討につなげるため、教育現場における使用状況、問題点等を把握する。

2 調査対象

東京都内の中学校 (869 か所)

3 調査内容

- (1) 使用状況 (教科、使用時期)
- (2) 教材のわかりやすさ
- (3) 教材を授業で使用・配付する際の活用方法、工夫した点等

4 調査方法

以下の手順により、事務局において調査を実施。

- ① 平成 25 年度分の教材の発送 (平成 25 年 1 ～ 2 月) 後、別途、東京都の中学校あてにアンケートはがきを送付、中学校において必要事項を記載するよう依頼。
- ② 中学校から事務局あてに返送。

(調査票の配布：平成 25 年 6 月末日頃、返送期限：同 7 月 12 日)

5 調査結果の概要

- (1) 回収率 29.2% (254 か所)
- (2) 結果の概要 別紙のとおり。

調査結果の概要

(1) 調査結果一覧

質問内容		主な結果	合計
問1	使用状況(予定含む)	①授業で使用(予定):65 (25.9%) ←19.0% ②配布(予定):170 (67.7%) ←69.3% ③使用・配付の予定はない:17* (6.8%) ←11.1%	251
	(1)教科	①社会科:17 (9.8%) ←38.9% ②保健体育科:72 (41.4%) ←48.0% ③その他:89 (51.1%) ←14.4% (※複数回答あり)	174
	(2)使用時期	①24年度(2、3月):70 (42.6%) ②25年度4～8月:41 (25.0%) ③25年度9～12月:39 (23.8%) ④25年度1～3月:14 (8.5%)	164
問2	わかりやすさ	①全体にわかりやすい:207 (91.6%) ←68.7% ②わかりにくい部分がある:19 (8.4%) ←14.6%	226
	わかりにくいと思った理由 (自由記述)	「特別支援学校等のため」9件 「全体的に難しい」3件 「聞きなれない語句(病名)や専門用語」2件 「中学生には難しい内容」2件 「ポイントが明確でない」2件 ほか ※ 詳細については、(2)を参照	32
問3	授業での活用方法、工夫した点等 (自由記述)	「授業の中で活用(副教材、参考資料等として)」 21件 「薬物乱用防止と併せて活用」13件 「配付のみ」8件 「特別支援学校等における活用事例」3件 ほか ※ 詳細については、(3)を参照	74

(注) ←の右側の数値は、昨年度のアンケート調査の結果(ただし、昨年度は全国の中学校が対象)

* 「使用・配付の予定はない」の理由としては、主に特別支援学校等であることによる。
(その他、常時服薬している生徒への配慮、教員の意向、誤って廃棄など)

(2) わかりにくいと思った部分や、その理由

自由記述〈回答者数:32名〉

わかりにくいと思った部分やその理由	件数
特別支援学校等のため	9
全体的に難しい	3
聞き慣れない語句(病名)や専門用語	2
中学生には難しい内容	2
ポイントが明確でない	2
情報量が多すぎる	1
責任の所在、原因の部分の記述に問題	1
具体的な改善案	1
わかりやすい、役に立った	6
その他	5

(※主な記述)

➤ 特別支援学校等のため：9件

- ・ 知的障害のある生徒にとっては理解が及ばない内容も多い。
- ・ 知的障害特別支援学校の実態と合わない。

➤ 全体的に難しい：3件

- ・ 新しい内容なので、もう少し砕いて説明できると良い。
- ・ 内容的に理解しがたい部分がある。
- ・ 文章が長く、難しい。

➤ 聞き慣れない語句(病名)や専門用語：2件

- ・ サリドマイドなどの話題は、今の子にはピンと来ない。
- ・ P5～6の薬害の事例はやや古く生徒に身近ではないので、HIVや肝炎など身近なものの方が良い。

➤ 中学生には難しい内容：2件

- ・ 実施学年は高1の方が理解しやすいのではないのでしょうか。
- ・ 中学生に身近な内容にしていただけるとありがたい。

➤ ポイントが明確でない：2件

- ・ 中学生に一番分かってもらいたい、知ってもらいたいところを分かりやすく強調して欲しい。
- ・ p1～2が、文字の大きさや色がほぼ同じなので、注目しにくい。

➤ 情報量が多すぎる：1件

- ・ ページに詰め込みすぎて、内容がどれが大事か分かりづらい。もう少しページを多くしていただきたい。

➤ 責任の所在、原因の部分の記述に問題：1件

- ・ 国の責任についてあまりにも他人事のような記述になっている。HIVについては授業でも扱っており、今の内容では国の責任逃れの印象となり逆効果。明確に自己批判的な記述にすべきであると考えます。

➤ **具体的な改善案： 1 件**

- ・ 学習のポイントの回答例をいくつか本文中に載せたり、中学生同士の会話形式の文を入れるとより分かりやすい。

➤ **わかりやすい、役に立った： 6 件**

- ・ 薬害の歴史等がよくわかる。
- ・ 薬害について、教科書には記述があまりされていないので、知識を深めるのにとても役立った。
- ・ 啓蒙、啓発に適している。
- ・ 写真が多くて良かった。
- ・ 写真がわかりやすい。

➤ **その他： 5 件**

- ・ ハンセン病や薬害エイズ問題について深く理解するためにも使用しています。
- ・ 現状で助かっています。今後もよろしくお願いします。
- ・ まだ使用していないため、不明。

(3) 授業での活用方法、工夫した点等

自由記述〈回答者数：74 名〉

授業での活用方法、工夫した点等		件 数
授業の中で活用(副教材、参考資料等として)	社会科(公民的分野)で活用(3)	21
	保健体育科で活用(10)	
	その他の授業等で活用(8)	
薬物乱用防止と併せて活用		13
配付のみ		8
特別支援学校等における活用事例		3
送付時期に問題	送付時期が早すぎる(4)	15
	送付時期が遅すぎる(8)	
	その他(3)	
特別支援学校等のため、活用が困難		4
補助資料が必要		1
教材の位置付けが明確でない		1
類似する資料が多すぎる		1
時間がない		1
サイズが使いにくい		1
その他		5

(※主な記述)

➤ 授業の中で活用(副教材、参考資料等として)： 21 件

① 社会科(公民的分野)で活用： 3 件

- ・ 経済分野(政府の役割)、人権(経済活動の自由)を考えさせる際の資料として活用。
- ・ ワークシートが役に立った。

② 保健体育科で活用： 10 件

- ・ 中学3年3学期に保健の授業で活用させていただいています。
- ・ 副教材として役立った。
- ・ 本教材を配付し、保健体育の薬害防止に活用した。
- ・ セルフメディケーション、薬と上手につきあう方法の授業の続きとして、薬害について教材を配付し、説明しています。
- ・ 事前に説明した上で、更に詳しい資料として生徒達に配付する予定です。

③ その他の授業等で活用： 8 件

- ・ 総合的な学習の時間で例年活用させていただいています。
- ・ 授業(保健体育・学級活動・道徳)で使用しました。

- ・ 道徳や LHR 等で配付し、教材の使い方については、担任の先生に任せています。
- ・ 本校では学活で配付し、保護者にも見てもらうように指導しています。
- ・ 生徒の保健委員会の活動として、全生徒で読み合わせを行いました。
- ・ 本校では卒業前の総合学習の一環として薬物乱用防止指導を行っていましたが、本年（H25）3月より、学校薬剤師による薬剤利用指導と内容を改め、広く薬物使用について指導を行いました。その際資料として使用しました。

➤ 薬物乱用防止と併せて活用：13 件

- ・ 「薬物乱用防止」に関する授業の一環として取り扱った。正しい薬の使用方法について考えさせた。
- ・ 薬物乱用防止教室の資料として使用しました。
- ・ 防犯講習会等の時期に配付し、指導しました。
- ・ 総合学習でダルクの体験談を毎年3月に実施しています。中3を対象に、事前に教材を配付。

➤ 配付のみ：8件

- ・ 本校では帰りの HR 等で生徒へ配付し、担任から簡単なコメントを補足してもらう程度ですので、特に工夫はありませんでした。
- ・ 教科の授業の中で特化して扱うことは難しい（深い）内容であると感じます。単元内のバランスも考慮すると、授業では配付できませんでした。1学期末に単にクラス毎に配付という形で扱いました。
- ・ 配付し、紹介はしているが、授業の中で取り扱っていない。

➤ 特別支援学校等における活用事例：3件

- ・ 本校は障害のある生徒の通う学校なので、この教材を一律に配付することに戸惑いを感じた。しかし、保健体育などにおいて必要な知識でもあるので、保健体育の教員がこの教材の中から必要な部分のみを選んで授業を行った。
- ・ 中学生といえども知的障害があるため、中学生用教材をそのまま利用することはできない。一部をかみくだいて説明するのが現状である。
- ・ 保護者あてに配付し、ご家庭で必要に応じて活用してもらっている。

➤ 送付時期に問題：15 件

① 送付時期が早すぎる：4件

- ・ 年度末に次年度の教材を送付していただくと、ミスが発生しやすいと思います。ぜひ、年度初めなど、対象学年中に送付いただきたいです。
- ・ 送付してすぐに配付してしまいました(24年度の中3に対して)。学校には様々なパンフ教材が送られてきます。年度をまたぐ時期に送付されても、それを次年度まで保存して使用するというのは難しいと思います。
- ・ 使用する年度の4月に送付していただくと使用しやすい。
- ・ 年度末に送付してもらっても、引継等の問題もあり、活用が難しい。新年度の5、6月あたりに配付していただければ活用しやすいかもしれない。

② 送付時期が遅すぎる：8件

- ・ 中学3年生の授業で使用する場合、もう少し早い時期の配付が良いと思います。（平成25年3月頃使用）
- ・ 年度末に来るよりは、教科の教材として使用出来るように、早めの配付の方が良い。（平成25年3月頃使用）

- ・ 年度末配付は、授業計画の作成が難しいです。もう少し早い時期に配付をお願いしたい。(平成 25 年 2 月頃使用)
- ・ 中学 3 年の 2 月に配付されても、実際の授業での活用は困難である。年間の指導計画に入れるためには、時期を選んだ計画的な配付を希望します。

③ その他: 3件

- ・ 毎年同じ時期に配付されると活用しやすい。
- ・ 授業では年間指導計画があり、時期的な問題がある。

➤ 特別支援学校等のため、活用が困難: 4件

- ・ 特別支援学級（知的障害）には難しい内容であり、授業での活用は非常に難しい。
- ・ 知的障害を持つ生徒がとて多いため、教材として使用するには難しい。
- ・ 特別支援学校では、生徒に使用できないこともありますので、ご配慮をお願いします。

➤ 補助資料が必要: 1件

- ・ デジタル動画等での資料があるとよい。

➤ 教材の位置付けが明確でない: 1件

- ・ 教科担当者が、中学 3 年生向けに配付されたものと認識していなかったため、高校 1 年生の保健で薬害を取り扱った際にそこで配付した。

➤ 類似する資料が多すぎる: 1件

- ・ 本校では教材を生徒に配付はしているが、厚生労働省だけの教材だけではなく、教科書会社（出版社）や市町村からも同様なリーフレットがあるため、どの教材を活用したのか覚えていない。

➤ 時間がない: 1件

- ・ 学校には数多くの種類の教材が送られている現状がある。教科と結びつけたり、活用する時間的余裕がない。

➤ サイズが使いにくい: 1件

- ・ もう少しサイズが小さいと保管しやすい。

➤ その他: 5件

- ・ 今後とも教材作成・配付をよろしくお願いします。